

2024 年度 JSAF 方針

常任委員会

【はじめに】

2023 年度は、ウィズコロナの新しい日常の中で連盟としての活動を再スタートさせた。また、目まぐるしく変化している国際情勢や経済環境も、スポーツ界に様々な影響をもたらしている。セーリング界も、新しい時代と新しい生活様式、多様な価値観に合わせて変わって行かなければならない。

2023 年度は、馬場益弘会長のもと新しい体制に移行し、組織基盤強化や勝ちに行くコーチング体制、日本パラリンピック委員会への加盟への取り組みなどの活動を開始したが、今年度は連盟中期基本方針に基づいた具体的活動を更に加速、推進する。

【セーリングスポーツの価値】

セーリングは、「自然環境の中で、男女を問わず、年齢を問わず、障がいの有無に関わらず一緒に楽しめ、また、誰もが自分に合った楽しみ方ができる。」という価値を持つインクルーシブなスポーツである。

また、セーリングは、国連が 2015 年に目標として掲げた「誰ひとり取り残さない、多様性と包括性のある社会」DEI (Diversity, Equity & Inclusion: 多様性・公平さ・包括) の推進に大きく寄与するものであり、海の環境保全活動とあわせて「競技としてのスポーツ」に限らない価値を有するスポーツである。

【中期基本方針】

連盟は、「セーリングスポーツの価値」を活力の源泉とし、JSAF VISION「セーリングをもっと楽しく Maximize fun of sailing」の実現に向けセーリングスポーツの国内認知度を高め、セーリングスポーツのより一層の普及・振興・発展を推進する。

そのために、会員と加盟する団体とともに、連盟の力を結集して DEI や環境保全を推進し、先進的な競技団体になることを目指す。

また、セーリングスポーツの魅力発信、社会共生、収入源増加にむけた新しいチャレンジを行う。

【2024 年度の重点施策】

I. もっと身近になる (Easy Access)

セーリングをブランディングし、戦略的なマーケティング施策と広報施策を実施することにより、セーリングと連盟を応援する個人・企業・団体を拡大する。

- (a) 地域社会の人々に「Start Sailing」を呼びかけ、セーリングの開始や再開の場を提供する。
- (b) 海洋環境問題への取り組みを拡大し、この取り組みを社会に対して広く発信する。
- (c) ジェンダー平等と障がい者参加を含むインクルーシブな取組みを推進し、それらの成果を広く社会に発信する。
- (d) セーラーのライフステージに合わせた連盟全体の普及に関する方針の再定義を行い、連盟普及事業を推進する。

II. 関わり続ける (Open Community)

国内外の情報を収集し、連盟の会員や加盟する団体に対し、連盟に関わり続けることに満足できるサービスやメリットを提供するとともに、マーケティング施策の成果を会員に還元する。

- (e) 加盟する団体間や他の組織（ヨットクラブ、自治体や企業、個人、マリーナなど）と連携して、セーリングに関わるコミュニティを創設し地域振興に貢献する。
- (f) 年齢や環境が変わっても誰もが自分に合ったセーリングを続けられるように、セーリングスタイルの多様性を守り、シーマンシップや生涯スポーツとしての価値を高める。
- (g) 全国のセーラーが満足できるレース品質を維持するため、オフィシャルズの人材育成を行う。
- (h) 効率化等の観点から業務を見直しつつ、現行の専門委員会の体制、連携方法の見直しを進め、次世代に引き継ぐための組織体制を整備・維持・強化する。
- (i) JSC 助成事業である組織基盤強化支援事業を完遂し、継続的に規程の見直しを行うなど、透明性の高い運営や、健全な財政、組織強化を目指し、スポーツ・コンプライアンスを遵守できるとともに、収益力をつける組織体制を整える。
- (j) 全国のヒヤリハット体験や安全にかかわる情報共有や通信環境整備、人材育成により、事故の極小化を目指す。

III. もっと強くなる (High Performance)

新しい「勝ちに行く体制」を継続推進し、パリ 2024 オリンピック競技大会でのメダル獲得を目指す。更にロサンゼルス 2028 オリンピック競技大会に向け次世代選手を育成するとともに、多様で幅広いセーリングを支援し、強化する。

- (k) パリ 2024 において 1 種目以上のメダル獲得という目標に向けて、NT-A、NT 選手を軸に据えた種目特化型の強化策を深化させ、実行する。
- (l) パリ 2024 以降を見据えた次世代選手育成プログラム（HOPE 育成プログラム）の内容をより高いレベルで充実させ、WS ユースワールドや Jr. ワールドにおいて入賞を狙え、かつアスリートとしての高い人間力を備えた選手を輩出していく。
- (m) オリンピック強化委員会を中心に JSAF 各専門委員会が Team JAPAN として結束・連携し、NTC、JOC 認定強化拠点の最大限の活用を通じて、強化活動を展開する。
- (n) 上記 (k)(l)(m)の方針に基づき、人的・物的資源配置の最適化を加速させる。
- (o) ブリスベン 2032 パラリンピック競技大会におけるセーリング競技の復活に向け、障がい者セーリングの普及活動、選手強化活動を推進する。
- (p) 愛知・名古屋アジア競技大会（愛知・名古屋 2026 大会）セーリング競技の開催、運営に向けて、愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会と連携して、連盟としての運営体制の確立を図り必要な準備を開始する。
- (q) 国民スポーツ大会（旧、国民体育大会）を、セーリング競技の普及と強化の両面から、関係団体と連携してその開催を支援、推進する。
- (r) セーラーのライフステージに合わせた連盟全体の強化に関する方針の再定義を行い、オリンピック種目に偏ることなく、キールボート、外洋艇など、総合的に連盟の強化事業を推進する。

以上

専門委員会 関係表(案)

		Easy access				Open community						High Performance							
		a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r
総務・広報	総務委員会			○	○				○	○									
	財政委員会								○	○					○				
	事業開発委員会								○	○									
	広報委員会		○	○	○		○		○	○	○		○		○		○	○	○
	国際委員会								○	○						○	○		
	環境委員会		○				○		○	○									
	レディース委員会			○	○		○		○	○								○	○
	アスリート委員会		○				○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
	海その愛基金 海洋環境グリーンプロジェクト推進委員会		○				○		○	○									
競技推進	ルール委員会							○	○	○	○			○					
	レースマネジメント委員会							○	○	○	○								
	ワンデザインクラス計測委員会							○	○	○									
	医事・科学委員会								○	○	○			○	○				
	e-Sailing 委員会	○		○			○		○	○									
普及・強化推進	普及指導委員会	○					○		○	○							○	○	○
	国スポ委員会 (旧、国体委員会)						○	○	○	○	○						○	○	○
	オリンピック強化委員会								○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ジュニア・アカデミー委員会	○					○		○	○	○								
	キールボート強化委員会						○		○	○	○								
	国際大会等準備委員会	○							○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
	パラセーリング委員会			○	○	○	○	○	○	○	○								
外洋艇推進	外洋常任委員会					○	○	○	○	○	○								
	外洋計測委員会							○	○	○									
	外洋安全委員会								○	○	○								
	通信委員会								○	○	○								
	アメリカズカップ委員会								○	○	○								
	ジャパンカップ委員会								○	○	○								